

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390800098		
法人名	営利法人 有限会社 パートナーズ		
事業所名	グループホーム みんなの家・津賀田		
所在地	名古屋市瑞穂区惣作町3丁目5番1号		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市千種区内山町一丁目11番16号		
訪問調査日	平成23年2月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の要望に対し出来るだけ実践しました、穏やかでその人らしく自由な暮らしと言う理念を意識・共有するように、取り組み実践している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

昨年開所したばかりの新しい2ユニットのグループホームであり、小規模多機能と併設しており閑静な住宅街に位置する。オープン間もない為、管理者をはじめ職員一人一人が、家族や利用者との信頼関係作りを注いでいる。利用者が「その人らしく」安心して穏やかにホームで過ごせるよう、日頃からコミュニケーションを密に図り、望みや思いが1つでも多く汲み取れるような支援に努めている。また利用者は地元からの入居が多い為、家族や顔なじみの友人、近所の人が頻繁に遊びに来てくれ、入居後利用者がホームでの生活を不安がることも少なく落ち着いて生活ができています。自治会を通し町内の催し物への参加や、婦人会や老人会との地域交流も積極的に行っている。今後はよりサービスの質と支援の専門性の向上を目指し、より良いホームを作って行きたいと考えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	活き活きと自分らしい暮らしを出来るような環境作りを理念として掲げています。 利用者様が中心となるケアの実践に向けて取り組んでいる。	ミーティングや申し送りで理念を振り返り、各職員が認識と共有に努めている。利用者の「その人らしい」生活とは何かを考え支援にたつよう心がけている。	理念に沿った支援とは、具体的にどういふ支援法かを話し合い、職員間で共有して実践に繋げていくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスタッフにも協力してもらい地域から孤立することなく様々な行事を通じて地域の方と交流している。また利用者様が地域の方ということもあり地域のご友人が来訪され、地域の一員として日常的に交流している。	地元からの入居が多い為、近所に住む友人や家族が頻繁に遊びに来てくれている。神社のお祭りに参加したり、近所の喫茶店へ出かけ顔なじみの人と談笑するなど、地域に溶け込みやすい環境であり、交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解、方法等オープン当初説明させていただいた程度で今後地域の方々貢献していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回運営推進会議を実施しホーム内で行なっているケア・行事の報告を行ない意見を頂き参考にしサービスの向上に努めています。	ホームの現状や活動状況を報告している。開設して間もない為、地域からの意見を尊重しながら、会議を通して協力と連携を働きかけている。	他職種との連携を図りながら、2ヶ月毎の会議を実施することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開所時・運営にあたり問題・今後の課題等直接相談させて頂いている。	職員は市が主催する研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。また開設の際に、区の担当者に挨拶へ行き情報提供を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵は居室内からしか鍵をかけられない様にしてある。フロアの出入り口の鍵はかけない様に心がけているが、状況に応じて施錠する時もある。	家族からの希望もあり、出入り口は施錠することもあるが、各職員はこれが拘束の1つという事は認識出来ている。日々の申し送りで、柵の使い方などを話し合い、より良い支援に努めている。	利用者の支援を行う際に、何が具体的に拘束にあたり、どんな言葉かけが望ましいのかを話し合い、実践に反映できることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使い入浴時の身体チェック等配慮している。朝の申し送り等活用して説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育の体制が不十分で機会を持ってない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等すべての書類を読み上げまた疑問がある時は納得できるまで説明させて頂いている。一方的な説明にならない様に配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見・要望等、朝の申し送りと申し送りノートにて職員に周知するようにしている。	開所して間もない為、家族や利用者との信頼関係作りを一番に考え、コミュニケーションを大切にしたい支援に努めている。家族がいつでも面会にきてもらえるよう、明るく穏やかな雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングを活用しその場で意見を出し合えるようにしている。またミーティングノートを活用し意見を出し合えるようにしている。	ミーティングを通して、業務改善や勤務体制について検討している。管理者は職員と個別に話し合う場を設け、支援法や利用者との信頼関係の築き方をアドバイスをしている。また、職員が悩みを抱え込まないよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開所して職員の資格取得、研修の機会を設け職員の向上心に努めていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所前にオリエンテーションを行い理念の共有・接遇・等行う。職員が定着せず外部研修も一部の職員しか参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後同業者との交流をもつ機会に努めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意見や要望を出来るだけ取り入れていくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の諸事情をふまえ、対応やサービスを柔軟にして、意向や要望には随時対応し協議して経過報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、要望や困っている事に対しサービスの選択をしていただき、以前のサービスを継続して利用している方もおり、幅広く取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体であること、サポートするという立場から、ストレスの軽減に努め、役割をもって関係性を明確にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や訪問時に報告や相談し、一緒にいる時間を大切にいただき、毎月の手紙に写真を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や訪問に対する規制をせず、外出希望などご家族様に確認し可能な限り対応できるよう努めている。近所の喫茶店にてお友達を呼んだり、神社にてお参り、今までのお坊様に来ていただいている。	地元から入居している利用者が多く、以前から利用していたスーパーや理容院などへ散歩も兼ねて出かけている。また家族の協力も得て、自宅に帰省をするなど馴染みの場所を大切に支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体のレクはもちろん、個別や少人数のコミュニケーションに努め、雰囲気や声掛けに注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が契約を終了しても、これまでの関係性を続けていける様、入院されてる方のお見舞いに行かせてもらったり、その後の相談もさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の方と協力しあい本人の希望またご家族の希望に近付けている。	職員は利用者の生活歴を把握して、利用者の希望する食事や入浴の仕方等、一人ひとりの思いに沿った支援に努めている。利用者が思いを話せる環境づくりを心がけている。	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを汲み取り利用者の立場に立った支援が出来るように努めてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、利用者の言われることの真偽を確認している。馴染みの家具や今まで使用していたものを置き今まで暮らしてきた生活に近付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム側の都合ではなく個々の利用者様のペースに合わせた援助を目的にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様、それぞれ要望を聞きスタッフ・主治医とで話し合いをし作成している。	入居時に利用者・家族から意向や思いを聞いて介護計画に盛り込んでいる。モニタリングは3ヶ月に1回行っているが状態変化時はその都度、計画の見直しを行っている。職員の申し送り時、打ち合わせ時に介護計画の共有に努めている。	入居時だけではなく、計画見直しには利用者や家族、また、必要な関係者と意向や思いを聞ける場を設け、より良い支援が行えるような対応に努めてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングにて議題としてあげて話あう時間を設けている。利用者様の様子、気づき、ご本人様の言葉を拾い記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科、運動療法、訪問歯科といった個別のニーズに合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問など支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の往診に来ていただき、緊急時には利用者様の状況を細かに報告して指示を仰ぐ。また利用者様が今まで通われていた病院の医師も個別で往診をされる。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療や必要に応じた受診ができるように家族と情報交換や連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度の往診のほか24時間体制でいつでも連絡出来るようにまた報告も随時行える。経過観察も密におこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに伺いその都度病院関係者と情報を交換し、入院中も退院後も安心して過ごせる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在検討中である。重度化が進行する中、看取りは重要な問題になってくるので今後は終末期の看取りを検討中。	入居時に家族には週末期におけるの看取りができないことを伝えている。重度化については日常的に医療が必要になった場合や水分補給が困難になった場合には事業所としてできる最善の方法を家族に伝え、双方が納得のいく体制づくりが出来るよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制の周知、実践は出来ているおり、今後は応急手当や初期対応の実践力を身につける研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練はホーム内では行っているが、運営推進会議を通じて協力して頂けるようにお話をさせていただいたが、具体化してない。地域の方よりご家族の了解を得て利用者様の年齢・性別など報告している。今後、運営推進会議で話し合い具体化したい。地域の方々も参加して頂き訓練の実施をしていきたい。	ホーム内での消防訓練は実施しており、消防署との合同訓練を予定している。地域の協力体制については自治会に利用者情報を報告しお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけ、地域と一体化の体制づくりを目指している。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方も多いため他利用者様の近くで声掛けするときには十分な配慮を心かけるようにしている。個人的な注意ではなく職員全体として朝の会議も利用して話をし対応に気を配るようにしている。気づいたことは自由に書けるよう設けている。	管理者は職員が利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい対応が出来るようなケアの質の向上を目指しているが、利用者の立場からではなく職員本位の支援になっている場面も見受けられる。	利用者の立場に立った視点から支援できるように職員の意識向上に取り組んでほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけにならないよう本人の言葉でいい出せるように(自己決定)心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や食事など個々ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性らしく・男性らしく暮らして頂けるよう支援するよう心掛けている。個々の使い慣れた化粧品を使い、定期的に訪問美容(希望があれば)にて身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立だけを使用するのではなく季節感を味わって頂くようにしている。利用者様と話し合い決めている。準備・盛り付け・片付けなど一緒に行っている。	献立は栄養士が考えている。調理、盛り付け、片付けは利用者と職員が協力しながら行っている。形態、食塩量等も利用者の状態に合わせている。季節のメニューを出したり、利用者の誕生日には好きなメニューを提供する等、食事が楽しめる工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリーが計算されている献立に沿って提供している。食事量・水分量のチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員が声掛けをしながら利用者様の状態に応じて口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から排泄パターンを把握し声掛けをしている。自尊心を大切にしていきたい。	夜間のみハビリパンツを使用している利用者はいるが、全員トイレで排泄できている。便秘の利用者には水分補給を促している。自己報告の排泄チェック表を今後上手に活用してほしい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量には十分気をつけている。午前中のレクリエーションに身体状況に合わせて軽く体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日利用者の意思を確認し、利用者様の個々の入浴時間帯等の希望に対応している。	毎日午後の利用者の希望する時間に入浴できるよう支援している。入居前から使用していた好きなシャンプーでの洗髪を行うなど、これまでの生活習慣を大切にしている。入浴を拒む利用者にも気分良く入浴できるような支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間などは決まっておらず、今まで通りのリズムで支援し、自室は、プライベートの空間として敬意をはらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人記録でいつでも確認ができ、変更や注意点は、申し送りノートにて出勤時に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に役割をもっていただき、家事や、細かい作業が得意な方にはお手伝いしていただき、希望があれば買い物や外食、通いなれた喫茶店などへ行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お出かけや希望があればいつでも買い物や外食喫茶店などに行き、家族様の要望はいつでも対応している。散歩やお参りは天気が良ければ支援し、家族様との外出はいつでも対応し、希望や行事などで外食花見などを予定している。	利用者の希望に応じて散歩や買物、喫茶店に出かけるなど外出を楽しめるように支援している。季節行事の外食や花見等も予定している。利用者だけではなく家族の希望にも出来るだけ対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、管理していただいたり、金庫に預かり、支払いの際は職員の見守りや支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を取り次いだり、手紙も出したりしている。利用者様がいつでもご家族やご友人と連絡が取れるように携帯電話を自室におかれている方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すための絵や、飾り付けを行なっている。居室、居間や特にヒートショックが起きやすい脱衣室・浴室の室温などを随時調節し、電気もこまめに調節している。トイレや廊下は必要な時だけ付け様にセンサーにていつでも明るくしている。また、ホームで撮った写真や作品を廊下などに飾り、いつでもお話出来るようにしている。	2F、3Fの室内の雰囲気は若干異なっているが「和風の家」のイメージを大切にしている。リビングは南の窓から明るい光が差し込み利用者が居心地よく過ごすことのできる場である。トイレ、浴室や廊下は車椅子対応もできるゆったりした広さがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーにも椅子にも座れるようにし、一人一人が自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は和風の内装にし、利用者様が落ち着きやすい雰囲気づくりをし、馴染みの家具、使い慣れたものを持ってきていただいている。家具やテレビ、配置などはご利用者様、ご家族と相談しながら利用者の過ごしやすいようにし、写真やカレンダーなどを飾っている。	入口には手作りのネームプレートが飾られ部屋を間違わない工夫がされている。居室の床面は畳柄のフローリングで安全面と情緒面に配慮されている。利用者の大切な仏壇や家族の写真等が置かれ、思い出にあふれる居心地の良い生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や座る場所などに配慮し、動線には何も無いように整頓、常に見守りしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2390800098
事業所名	グループホーム みんなの家津賀田

【重点項目への取組状況】

重点項目	取組内容	評価
①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 地元から入居している利用者が多い為、友人が頻繁に遊びに来たり、買い物や散歩の際に近所の人から積極的に声をかけてもらえるなど、開所からホームはあたたかく受け入れられ、良好な関係作りが出来ている。自治会にも加入し、ホームがどんな所かを情報提供している。	○
②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 区長、町内会長、町内相談員、地域包括支援センター職員の参加協力を得て会議を実施している。昨年開所し、参加者に向けてホームの役割や位置づけを説明し、今後地域と協同してホームを運営していけるよう働きかけを行っている。また災害や利用者のエスケープなどの緊急時に、地域の協力と連携が図れるようお願いをしている。	○
③	市町村との連携（外部評価項目：4） ホーム開設にあたり、管理者が市の窓口へ出向き、担当者に情報の交換や現状の報告を行った。また必要に応じて、相談やアドバイスをもらえるよう連携に努めている。	○
④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族や利用者が入居にあたり不安や心配を抱え込まないよう、コミュニケーションをゆっくりととるよう心がけ、思いや要望を聞きとるようにしている。ホームで手巻きずし作りなどの行事を行う際は、家族も利用者と一緒に参加し、ホームでの暮らしぶりを知ってもらうとともに楽しんで活動を行っている。	○
⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	/	×				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

